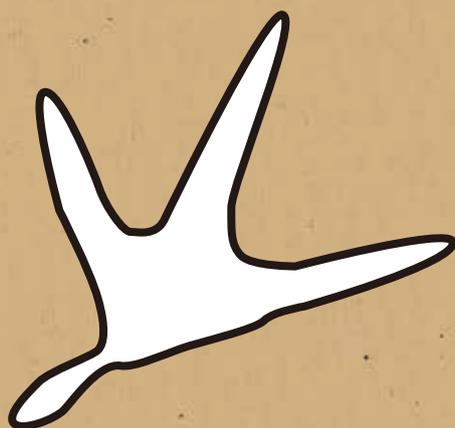


コウノトリ野生復帰のあしあと



兵庫県豊岡市

まずは、コウノトリのことを知ろう！

コウノトリ

【分類】

目：コウノトリ目 *Ciconiiformes*

科：コウノトリ科 *Ciconiidae*

属：コウノトリ属 *Ciconia*

種：コウノトリ *C. boyciana*

【学名】*Ciconia boyciana* (キコニア・ボイキアナ)

【和名】コウノトリ

【英名】Oriental White Stork

ちなみに・・・

ツル ツル目-ツル科

サギ ペリカン目-サギ科

2012年、サギはコウノトリ目-

サギ科からペリカン目-サギ科

に変更になりました。

●ENDANGERED (IUCN Red List)



●絶滅危惧IA類(CR) (環境省レッドリスト)



●特別天然記念物-1956年指定

●国内希少野生動植物種(種の保存法)-1993年



からだの特徴



何を食べる？

カエル、小魚、昆虫などの小動物を主食とし、雑穀類は食べません。飼育下では1日約400~500gのエサをたிராげる大食漢の鳥。コウノトリが生きていくためには、生きものがたくさんいる自然が必要なのです。



どうやって食べる？

「エサとりは下手だ」と言われるコウノトリ。では一体どんな方法でエサをとっているのでしょうか。

おおむね3つの方法があります。

- ①獲物を直接見て、狙って捕まえる。
- ②口を半開きにして水中を突きまくり、くちばしに当たった獲物を捕る。
- ③くちばしを半開きにして水中に突っ込んだまま左右に振り、くちばしに当たった獲物を捕る。



③の方法によるエサ捕りの様子



コウノトリの舌は短く、食べものを喉の奥に運ぶことができません。そこで、食べものを一度空中に放して、喉の奥に放り込むようにして食べます。

巣づくり・子育て



コウノトリの足は後ろ指が長く、枝をつかむことができるため、木の上にもとまれます。かつては、直径約2mにもなる巣を松の木の上につくってヒナを育てていました。これに対して、ツルは後ろ指が短く、枝をつかむことができません。したがって、掛け軸や花札に描かれる「松上の鶴」の絵は、実際にはコウノトリだろうと言われています。現在は松の大木が見られず、人工巣塔(人間が立てた塔)で営巣しています。



2月から4月にかけて、1~2日おきに1つずつ計4~5個を産卵します。産卵後約1ヶ月で孵化、孵化後約2ヶ月で親鳥とほぼ同じ大きさになり、巣立ちを迎えます。

(写真：県立コウノトリの郷公園ほか)

コウノトリの暮らしを知ろう！

～私たちの生活のすぐ近くにいる鳥～



かつては水田を見渡す山裾の松の木、今は人工巣塔が主な営巣場所です。

里山

水鳥であるコウノトリにとって、川の浅瀬は大切な場所。季節によってはメインのエサ場です。



川

水深が浅く、生きものがいっぱいいる「田んぼ」は大好きな場所。稲刈りの後でもバッタやイナゴを食べに来ます。



田んぼ

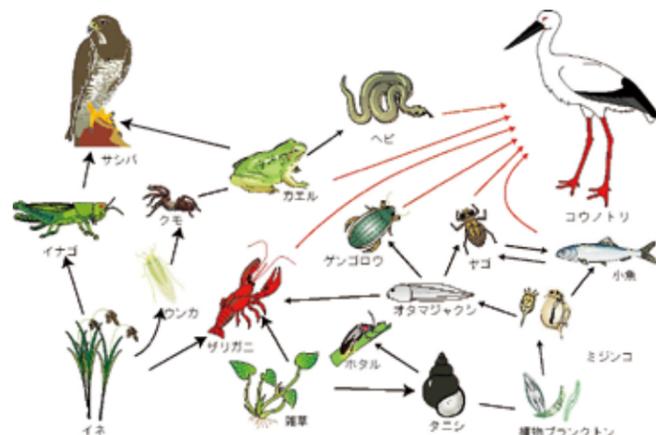
私たちの暮らしのすぐそばで生きるコウノトリ。人との関わりが非常に強い鳥です。



体が大きく、大飯喰らいのコウノトリは、エサとなる生きものがたくさんいる場所でなければ暮らせません。また、ヒナを育てることもできません。

地域に、水でつながる豊かな自然があり、そこに「田んぼ」に代表される人間の営みが絡み、たくさんの生きものが存在し、全体の中の一部としてコウノトリも暮らしている。

地域まるごとが“無事”な状態こそが、コウノトリの本来の居場所です。



(図：県立コウノトリの郷公園)

コウノトリの歴史を知ろう！



(写真：(有) 富士光芸社)

共生 かつて、コウノトリは日本のあちこちで生息していました。円山川・豊岡盆地を中心に水辺の生きものを育む湿地環境が広がる豊岡は、コウノトリにとって好都合の場所。「ジル田」と呼ばれる湿田や、年中水がある土水路、川の浅瀬などをエサ場に、多くのコウノトリが暮らしていました。

減少～絶滅 しかし、第2次世界大戦中に巣をつくるための松は伐採され、戦後の経済性・効率性を重視する社会構造の変化の中、さまざまな開発によって湿田や湿地環境も減り続けました。さらに農薬の大量使用なども重なり、1971年に日本の空からコウノトリは絶滅。豊岡は、国内最後の生息地でした。

保護～増殖 絶滅に先立つ1965年、野外のコウノトリを保護して人工飼育が始まりました。しかし、繁殖は失敗の連続。1989年、飼育の開始から25年目の春、ようやく初めてのヒナが誕生しました。



(写真：神戸新聞社)



(写真：県立コウノトリの郷公園)



放鳥 コウノトリは人里で暮らす鳥です。増殖したコウノトリが野生復帰するためには、私たちの周りに、彼らを受け入れる豊かな環境(自然環境と文化環境)が再生されていなければなりません。農業、教育、観光などさまざまな分野での取組みを積み重ねながら、2005年、野生復帰に向けて初の放鳥が行われました。

野生復帰 2007年には、43年ぶりに野外でヒナが誕生し、46年ぶりに巣立ちました。放鳥と自然下での繁殖により、2015年現在、70羽以上のコウノトリが私たちのすぐそばで暮らしています。「コウノトリと共に生きる」ための自然と文化の再生・創造の取組みは、今後も継続して展開されていきます。



コウノトリをめぐる動きを知ろう！

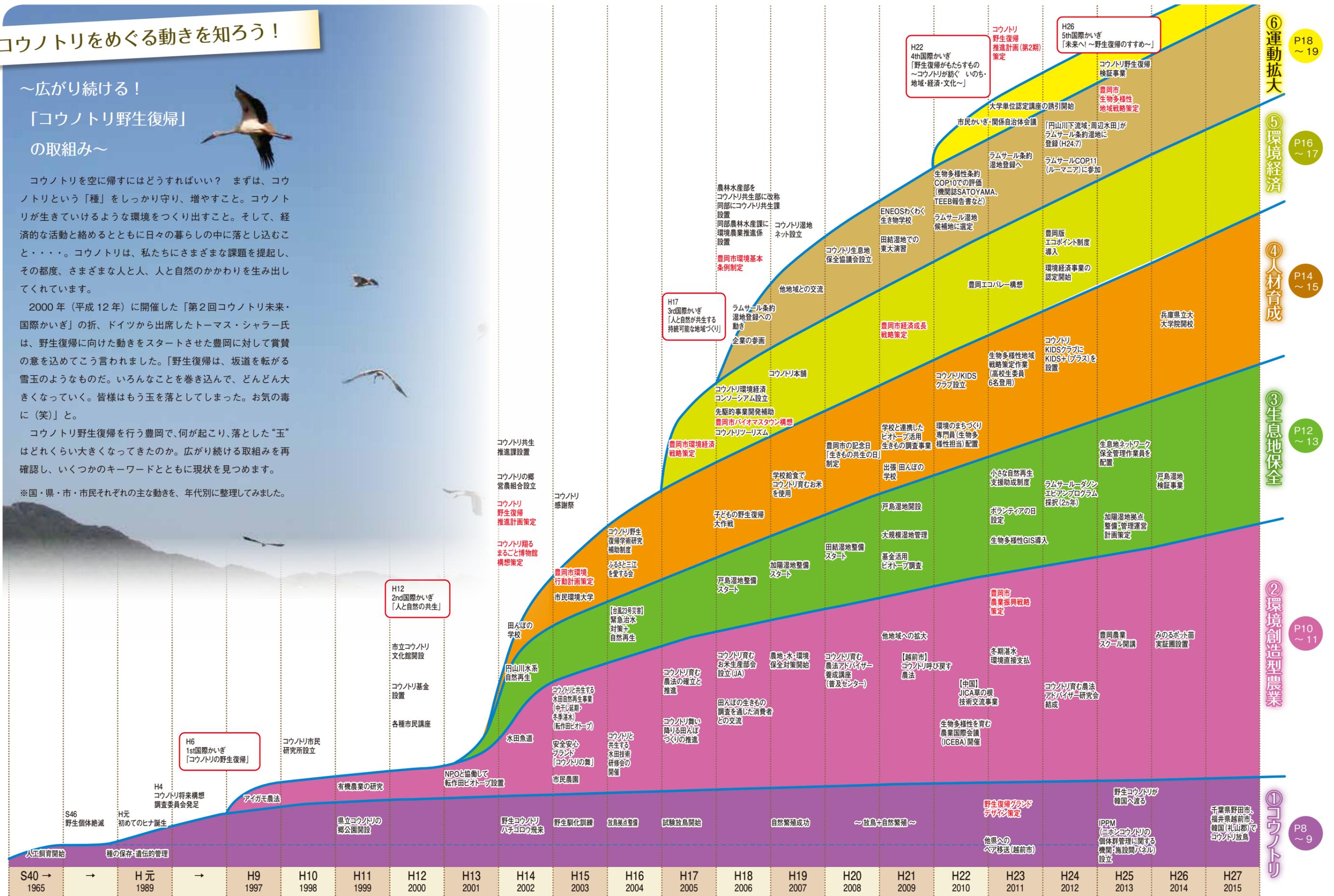
～広がり続ける！ 「コウノトリ野生復帰」 の取組み～

コウノトリを空に帰すにはどうすればいい？ まずは、コウノトリという「種」をしっかり守り、増やすこと。コウノトリが生きていけるような環境をつくり出すこと。そして、経済的な活動と絡めるとともに日々の暮らしの中に落とし込むこと……。コウノトリは、私たちにさまざまな課題を提起し、その都度、さまざまな人と人、人と自然のかかわりを生み出してくれています。

2000年（平成12年）に開催した「第2回コウノトリ未来・国際かいぎ」の折、ドイツから出席したトーマス・シャラー氏は、野生復帰に向けた動きをスタートさせた豊岡に対して賞賛の意を込めてこう言われました。「野生復帰は、坂道を転がる雪玉のようなものだ。いろんなことを巻き込んで、どんどん大きくなっていく。皆様はもう玉を落としてしまった。お気の毒に（笑）」と。

コウノトリ野生復帰を行う豊岡で、何が起ころ、落とし「玉」はどれくらい大きくなってきたのか。広がり続ける取組みを再確認し、いくつかのキーワードとともに現状を見つめます。

※国・県・市・市民それぞれの主な動きを、年代別に整理してみました。



- ⑥ 運動拡大 P18～19
- ⑤ 環境経済 P16～17
- ④ 人材育成 P14～15
- ③ 生息地保全 P12～13
- ② 環境創造型農業 P10～11
- ① コウノトリ P8～9

S40 → 1965	→	H元 1989	→	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015
------------	---	---------	---	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

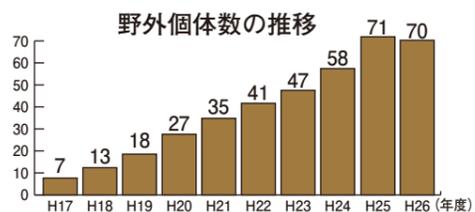
① コウノトリ

(資料：県立コウノトリの郷公園)

I. 個体数の推移(飼育・野外)

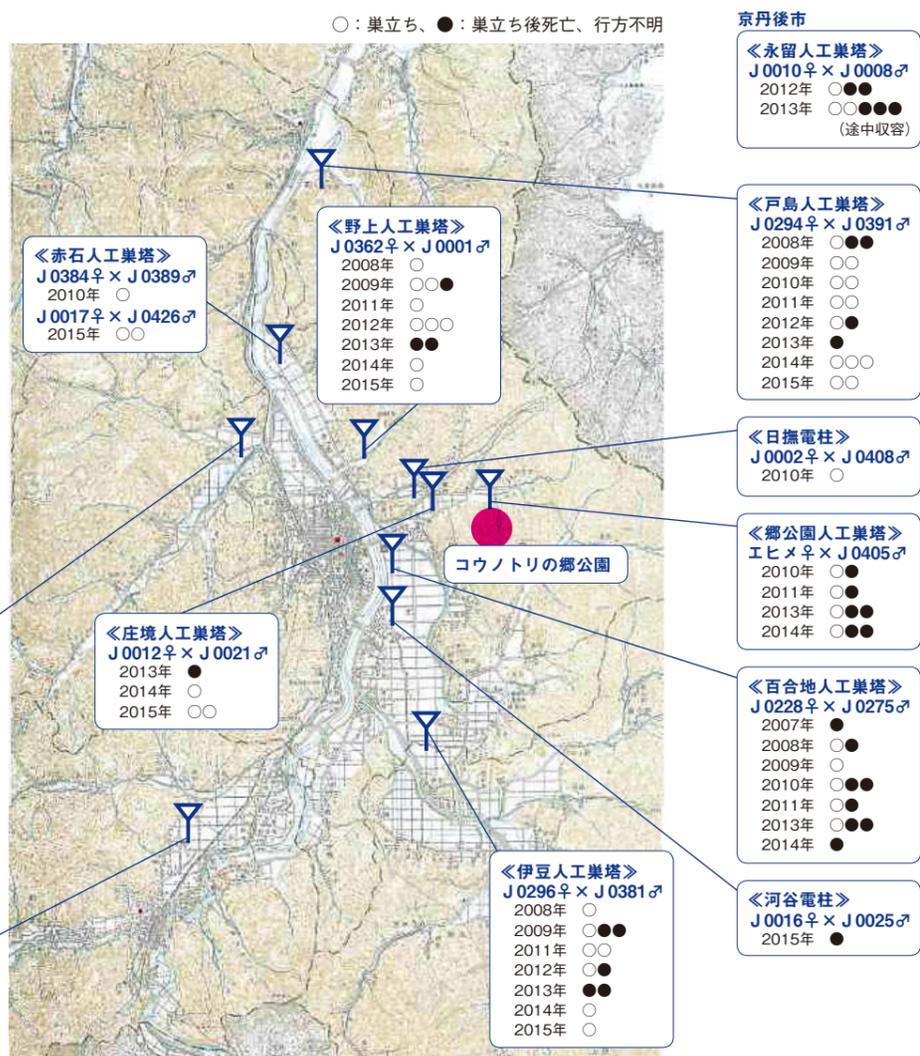


(左) 保護増殖の技術は向上し、飼育個体数は100羽前後で推移。県外への移送、動物園との交換なども行われています。
(右) 放鳥個体の自然繁殖により、野外の個体数は増加しています。ただ、不慮の事故による死亡や、衰弱による収容等も見られます。(20ページ「野外個体一覧」参照)



II. 野外での繁殖状況

普段は市内外に散らばって暮らし、繁殖時期になると、ペアは営巣場所(主に人工巣塔)を中心に一定のなわばりを持ちながら行動します。郷公園の「公開ケージ」で飼育個体に対して行われている給餌を当てにする個体もまだまだ多い状況です。



※ H 28.2 現在、市内の人工巣塔は 26 箇所

III. 飛来目撃 日本地図

塗りつぶされた府県は、野生復帰したコウノトリが飛来したところ。H28.1現在42府県286市町を訪れています。H26.3.18には、ついに国境を越え、韓国(金海市)に降り立ちました。



豊岡で生まれ育ったコウノトリには、ほぼすべてに足輪がつけられています。「大きな鳥がやってきた!」→「写真や双眼鏡で足輪を確認!」→「どの個体がわかります!」

(例) 右 ● 左 ● 右が黒で左が赤黒黄だから... J0051(♀)だ!

(P20~21 野外個体一覧表参照)

IV. 今後の展開

● コウノトリ野生復帰グランドデザイン (H23.8兵庫県教育委員会・コウノトリの郷公園策定)

【主な課題】

- ① 繁殖ペアのなわばりの重複(適正配置)
- ② 人為的な給餌への依存
- ③ 繁殖ペア数の回復
- ④ 鳥インフルエンザ等による絶滅リスクの回避

【短期目標】

- ① 豊岡個体群の維持(7ペア)
- ② 自活の促進(給餌方法の実験的変更)
- ③ 新たな繁殖個体群の創設に向けた共同研究
- ④ 遺伝的多様性の向上
- ⑤ 但馬個体群への拡大(14~15ペアの創出)

【中期目標】

国内地域での繁殖個体群の確立

【ゴール】

安定したメタ個体群構造の確立



福井県越前市で飼育開始 H27.10.3越前市で2羽のコウノトリを放鳥

千葉県野田市で飼育開始(株野田自然共生ファーム) H27.7.23野田市で3羽のコウノトリを放鳥

I P P M (Inter-institutional Panel on Population Management of the Oriental White Stork) ニホンコウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル設立



県内養父市・朝来市での放鳥(H25~)

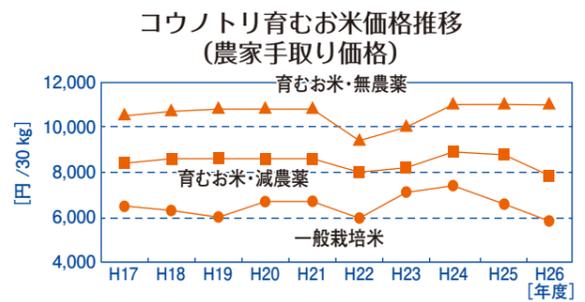
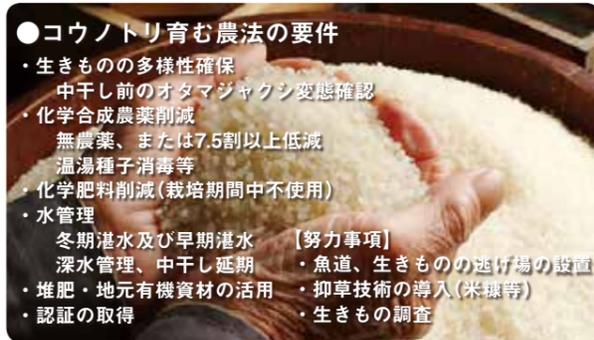
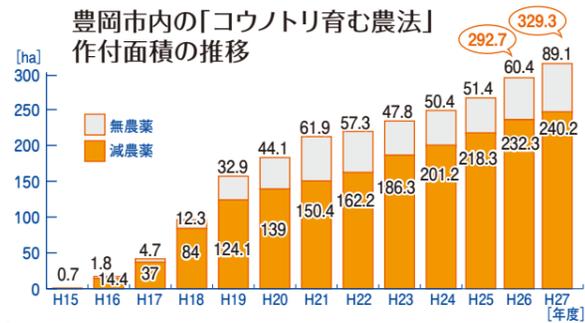
②環境創造型農業

I. 環境創造型農業の現状

●「コウノトリ育む農法」による米づくり



(写真: JA たじま)

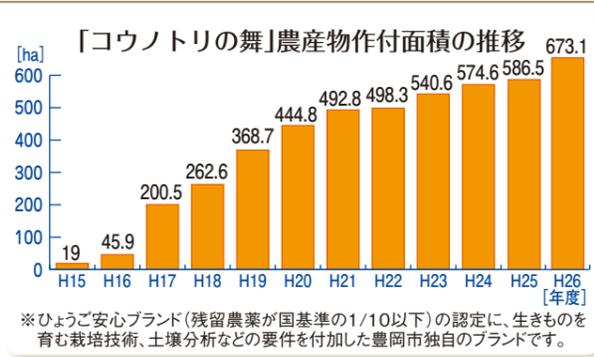


豊岡市における環境創造型農業への支援制度の推移(冬期湛水)

区分	H15~19	H20	H21~22	H23~26	H27
冬期湛水(市)	40,000円(県半額)	7,000円	7,000円	(7,000円)	—
ポンプ揚水(市)	—	2,000円	—	—	—
環境直接支払(国)	—	—	—	8,000円	8,000円

※H23年度からは、「冬期湛水」が国の環境直接支払制度の対象に含まれるようになりました。(制度選択可)

●コウノトリの舞ブランドの拡大



II. 生産者と消費者の連携



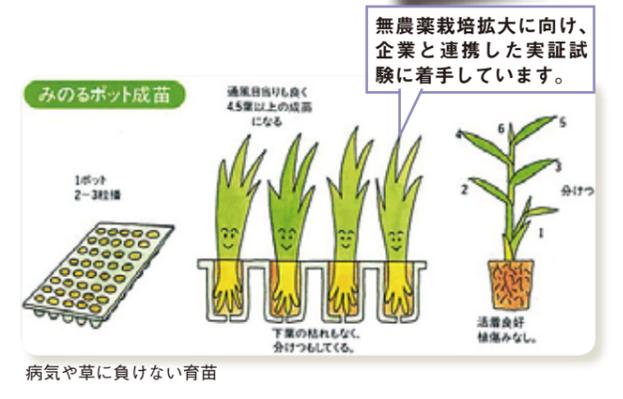
III. 拡大に向けて

●豊岡市農業振興戦略の策定(H24.3)

基本方針 コウノトリとの共生を目指す環境創造型農業の推進

四つの柱 「つくる」「たべる」「まなぶ」「まじわる」

目標 豊岡型環境創造型農業による水稲作付面積を、10年後に51%(過半数)にし、「育む農法」を柱に普及・推進を図る。



③コウノトリの生息地保全

I. コウノトリの生息地となる水辺環境の創出

造成された湿地位置図

- 大規模造成湿地
- 放鳥拠点地
- 休耕田活用湿地
- ラムサール条約湿地エリア



◎ひのそ島

川の中洲を湿地に
(国土交通省)



掘削前

「環境に配慮した治水」
として、約16haあつた
中洲の半分を掘削し、
湿地が創出されました。



(写真：国土交通省)

II. ネットワーク化

▲ハチゴロウの戸島(としま)湿地 3.2ha

水田を買収し、県と市で整備した人工湿地



大陸から訪れた野生コウノトリ・ハチゴロウ(H19.2死亡)が好んで舞い降りた湿田を、「ハチゴロウの戸島湿地」として整備しました。(H21.4) 楽々浦湾～円山川～日本海と水路でつながる汽水湿地(0.7ha)と農業用水や湧水を引き込んだ淡水湿地(2.5ha)が仕切堤防で区切られており、堤防に設置された起伏ゲートを利用して、たくさんの魚類等が行き来します。湿地内の人工巣塔では、H20年から連続でコウノトリのペアがヒナをかえし、円山川下流域における生息の拠点として機能しています。

基金活用ビオトープ



休耕田等を活用し、市内に29ある小学校区ごとに一定規模のビオトープの設置を進めています。ビオトープを拠点として、3年生を中心に、生きもの調査授業を展開。

◎田結(たい)湿地 約12ha

休耕田を共有化し、村で支える湿地



H20年の春、戸島湿地に営巣していたコウノトリが飛来するようになり、休耕田だった田結地区の水田に新たな価値を生み出してくれました。枯れることのない豊富な水とシカ・イノシシによる適度な攪乱が、休耕田を「明るい湿地」として保ち、谷は生きものたちの宝庫に。そこで、地元NGOの支援や研究者のアドバイスを受けながら、住民による湿地としての管理が始まりました。生産性を持たなくなった水田に新たに共通の価値を見出し、個々の土地境界にこだわらず、村の共有財産として住民総出で管理作業を行う様が、「新しいcommons」として注目を集めています。

◎加陽(かや)湿地 約15ha

国土交通省が河川区域内に整備する人工湿地



円山川と出石川の合流点付近に位置する加陽地区で、国土交通省が、河川敷の農地を買収して行っている約15haの自然再生プロジェクトです。(H20～) 閉鎖型と開放型の湿地を併設。家畜の放牧を行う牧草地も隣接させ、生きものと人が共生する象徴的な空間の創出を目指します。六方田んぼや出石地区に近く、コウノトリの重要な生息拠点としての機能が期待されています。



▲加陽湿地に飛来したコウノトリ

小さな自然再生活動



地域やグループで行う「小さな自然再生」を応援する補助制度を設け、個性的な湿地再生も進めています。

ビオトープ設置に関する 支援制度(業務委託)の推移

【10aあたり委託料】

区分	H15～19	H20～22	H23	H24～
ビオトープ	54,000円	27,000円	27,000円	24,000円
生きもの作業	—	—	4,000円/回	4,000円/回

④人材育成

I. 子どもたちへの環境教育

ビオトープでの生きもの調査授業(市+市教委)

「コウノトリ基金」を活用し、休耕田等を利用したビオトープ水田を設置しています。29ある小学校区ごとに一定規模の設置を目指し、地域の生物多様性を保全するとともに、環境体験学習の拠点地を生み出します。(H21～)

【H26年度実績】

学校区	面積
16	1,239.3a



設置したビオトープ水田を主に活用し、兵庫県が進める「ふるさと実感・環境体験事業(小学校3年生)」と連携した生きもの調査事業を展開しています。

【H26年度実績】

実施校数	実施回数
19校	21回

田んぼの学校(NPO法人コウノトリ市民研究所)

毎月第3日曜日には「田んぼの学校」が開校。田んぼや里山で遊んだり、生きもの調査をしています。お昼は野生の生きものを素材にした鍋を食べて解散です！(H12～)



(写真：コウノトリ市民研究所)

- 4月 タンポポ探し、春の草を食べる
- 5月 田んぼでオタマ、タイコウチなど
- 6月 田んぼでトンボやカエル、メダカ
- 7月 小川で魚とり
- 8月 里山探検
- 9月 あぜ道の生きもの、イナゴやバッタ
- 10月 秋の田んぼでアカトンボ
- 11月 里山で落ち葉集め、薪作り
- 12月 木の実や蔓や木切れで工作
- 1月 里山観察、足跡や野鳥など、雪遊び
- 2月 冬の田んぼ、アカガエル調査
- 3月 自然を食べる会、ソバ打ちなど



※これまでコウノトリ文化館周辺で行っていた活動を、自分の住む地域に招く「出張田んぼの学校」もスタート(H21～)

出張田んぼの学校

地域に講師が赴き、子どもたちと生きもの調査をします。自分たちの住む地域にどんな生きものがあるのかみんなで調べよう！



【H26年度実績】

実施回数
20回

コウノトリKIDSクラブ(市)

コウノトリとその生息を支える自然について学び、下級生へとつないでいく。学校や学年を越えた活動母体「コウノトリKIDSクラブ」を運営しています。(H22～)



H24年度からは、KIDSクラブ(最大3年履修)を中心に、指導的な役割を果たす「KIDSプラス」も交わり、自然に関する知識を身に付けながら、コウノトリ野生復帰を未来に継承していただけるキーパーソンの育成を図ります。

KIDS+(プラス)
(中学生以上)

KIDSクラブ
(小4~小6)

子どもの野生復帰大作戦 (但馬自然史研究所+豊岡市地域コミュニティ振興部)

コウノトリの野生復帰に必要なのは、自然を身近に感じる心。コウノトリの野生復帰は実現した。次は、子どもの野生復帰大作戦だ！(H18～)



活動例(H26)

- ・子ども生きものコース
- ・子ども探訪コース
- ・家族コース
- ・出向く野生復帰大作戦
- ・ふるさとの自然とお宝を再発見
- ・年に一度「子どもの野生復帰まつり」
- ・市内各地域の先人文化に親しむ
- ・季節を感じ、自然の中親子で楽しむ



⑤環境と経済の共鳴

私たちの暮らしを支えるベースは「経済」です。コウノトリ野生復帰の取組みを大きく広げていくためには、人々の“日々の暮らし”の中に取組みを内在させることができるか、経済といかに結びつけられるかが重要なテーマです。

I. 豊岡市環境経済戦略(H17.3)

戦略前文より

環境と経済が共鳴する仕組みを磨き、広げることにより、これまで相反すると考えられていた『環境』と『経済』を共に発展させる。

ねらい

- ①持続可能性 環境への取組みを持続可能にする
- ②自立 環境という資源を生かして経済的に自立する
- ③誇り 豊岡での暮らしを誇りあるものにする



実現するための基本の柱

- ①豊岡型地産地消の推進
- ②豊岡型環境創造型農業の推進
- ③コウノトリツーリズムの展開
- ④環境経済型企業の集積
- ⑤自然エネルギーの利用

II. 豊岡市経済成長戦略(H21.11)

経済成長の大きな2つの柱



戦略を支えるさまざまな事業

- ①ものづくり企業等支援補助(2/3補助・H25~)*
 - 新製品・新技術開発支援(上限300万円)、起業・第二創業支援(上限100万円)
 - 展示会出展等支援(上限30万円)
- ②自然エネルギー導入
 - 太陽光発電システム設置補助(3~4万円×4kw上限・H14~)、ペレットストーブ・ペレットボイラー・薪ストーブ・薪ボイラー設置補助(1/2補助。上限20万円・H23~)
- ③環境経済事業認定(H24.9~)
 - 市内企業の行う環境経済事業を市が認定し、補助金の優遇、専門家の派遣など重点的な支援を行う。
- ④環境経済インキュベーションパートナーシップ(H25.1~)
 - 市内金融機関・商工会議所・商工会・豊岡市が、事業計画への助言、支援策の検討を行う。

* 環境経済事業推進補助金(H18~21)、技術革新等支援補助制度(H22~)から移行

たくさんの事業認定を行っています



III. 具体的な事例

豊岡型地産地消
環境経済型企業
自然エネルギーの実践例



地球温暖化対策 ↔ 経済

豊岡には、薄膜系太陽電池で世界最高水準の製品をつくる工場があり、メガソーラーの設置や市内家屋への設置補助等でエネルギーの地産地消を進めています。



森林保全対策 ↔ 経済

小学校や官公庁などにペレットストーブ、ペレットボイラーの導入を進め、市内の事業者が市内の間伐材からつくったペレットを使用しています。



リサイクル ↔ 経済

使用済みペットボトルを再利用し、市内の事業者がポリ袋を製造しています。

コウノトリツーリズムの実践例



JTB 交流文化賞 第1回最優秀賞を受賞(H17)。旅行商品として定着しました。



「観光」「体験」をもう一歩踏み出した「貢献プログラム」が好評。コウノトリ野生復帰事業に作業で貢献し、取組みの一員になる。



市民ガイドがコウノトリの郷公園の隠された意味を解説する「コウノトリツーリズムガイド」が好評。(H20~)



参加の形はいろいろ。作業で汗を流した後は、城崎温泉でくつろぎ、地域に触れる。新しい形のエコツーリズムです。(H22~)

⑥運動の拡大（取組みの深化 + 外部との連携・支援）

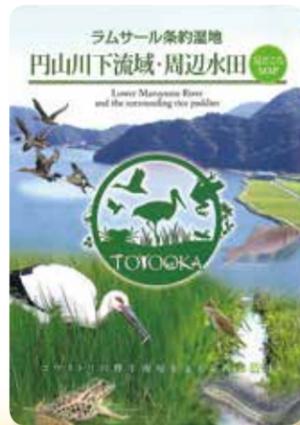
失われた自然環境と文化環境の再生・創造を目指すコウノトリ野生復帰の取組みは、野生生物の保護に留まらない普遍的な価値観を内包しています。内外の様々な主体との協働と、他地域への「運動の拡大」も重要なテーマの一つです。

I. ラムサール条約湿地登録

ラムサール条約は、国同士が手を結んで世界の湿地環境を守る国際条約。その登録は、国際的に重要な湿地と認められたあかしでもあります。
H24.7、「円山川下流域・周辺水田」が条約湿地に登録されました。野生復帰したコウノトリの生息を支える自然再生の取組みが、評価を受けたものです。



・ラムサール条約事務局
・環境省
・登録湿地 関係市町村会議
・ラムサールセンター



円山川



田んぼも重要な湿地です



人工湿地「市立ハチゴロウの戸島湿地」

登録面積／560ha
保護の制度／
国指定鳥獣保護区・特別保護地区、国立公園特別地域、河川区域
登録基準／
基準②絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地
基準③魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地

II. 生物多様性地域戦略策定

地域の自然や生きものは、地域の風土に根付いたもの。H25.9に策定した「豊岡市生物多様性地域戦略」のキーワードは「コミュニティの力で支える生物多様性保全」です。地域のつながりが強い小学校区を基本に、コミュニティ強化と生物多様性保全の共鳴を目指します。



・環境省
・生物多様性自治体ネットワーク
・国連生物多様性の10年日本委員会



高校生6人が検討委員として加わり、絵本のような読みやすい戦略になりました。

5年間(2013~17)の短期戦略
作戦1 「まずは知る」
地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。
作戦2 「行動に移す」
多様な生きものが住みやすい環境を増やします。
作戦3 「基盤を守る」
地域を支える第一次産業を育てます。
作戦4 「つながる・つなげる」
人と人、地域と人とのつながりを深めます。
作戦5 「効果を高める」
作戦を実行しやすいしくみをつくります。

III. 企業の誘引



コウノトリ野生復帰事業を応援いただいている企業と協定を締結し、具体的な湿地保全活動に参画いただいています。

- 【協定締結者】
- ・JX日鉱日石エネルギー(株)
 - ・田結地区、コウノトリ湿地ネット、豊岡市
- 【協定内容】
- ・田結湿地をコウノトリの生息地として機能させ、地域の生物多様性を保全するための維持管理をサポート
 - ・田結湿地をフィールドとした環境教育活動の実施
- 【具体内容】
- ・ENEOSわくわく生き物学校の開催
 - ・必要な協賛金の支払い
- 【事業効果】
- ・湿地保全活動の資金確保
 - ・企業と地域・NGOとの協働
 - ・地域活性化



コウノトリ野生復帰を学び



湿地の様子を知り



小さな自然再生活動として、シカによる食害から植物を守るための柵を設置!



結果は？ 随時観察します。

IV. 豊岡市コウノトリ基金



市の取組みに賛同していただいた企業や団体に、豊岡市コウノトリ基金に寄付いただき、コウノトリも暮らせるまちづくりに活用しています。

- コウノトリ基金を活用する主な取り組み
- 【コウノトリの生息環境保全】
- 休耕田などをビオトープとして利用、管理し、生物多様性を保全するとともに、コウノトリのエサ場の創出を行います。また、市内の小学生がビオトープで生きもの調査授業を行い、子供たちの環境学習の場としても使用しています。
- 【活動支援】
- 市民グループによるコウノトリの生息地や生物多様性の保全活動などの「小さな自然再生」活動にも活用しています。
- 【ハチゴロウの戸島湿地維持管理】
- コウノトリの生息地や地域の生物多様性保全の核として機能させるため、「ハチゴロウの戸島湿地」の維持管理に活用しています。
- 【コウノトリ育むお米】
- 小中学校の米飯給食では地元産米を毎日使用していますが、その内週3回、生き物を育む田んぼを維持・拡大するため、コウノトリ育む農法で作られたお米を、コウノトリ基金を活用して提供しています。



ハチゴロウの戸島湿地



小さな自然再生



生息環境保全

資料 野外個体一覽 ※2016年1月現在

営巣場所	個体番号・性別			個体識別				生年月日	放鳥・巣立ち情報	備考			
	放鳥世代	第2世代	第3世代	右脚輪		左脚輪					羽の染色		
				踵上	踵下	踵上	踵下						
百合地	J 0228 ♀			黄	黒(番号)	緑	黒	青		1998/04/15	2006/09/24河谷放鳥		
	J 0275 ♂			赤	黄	黒	黒			2000/04/11	2006/09/24河谷放鳥		
		J 0003 ♀								2007/05/19	2007/07/31巣立ち	行方不明	
		J 0004 ♀								2008/03/20	2008/06/10巣立ち	2014/07/11死亡確認	
		J 0005 ♀								2008/03/20	2008/06/04巣立ち	2009/04/06死亡(事故)	
		J 0012 ♀								2009/03/11	2009/05/24巣立ち		
		J 0025 ♂			黒	黒(番号)	黒	赤	赤	2010/06/21	2010/08/29巣立ち		
		J 0026 ♂			黒	黄	黒	黒		2010/06/21	2010/08/29巣立ち	2010/09/13死亡(衰弱)	
		J 0027 ♀								2010/06/21	2010/08/29巣立ち	2010/09/19死亡(衰弱)	
		J 0045 ♂								2011/07/16	2011/09/24巣立ち	2012/04/11死亡	
		J 0046 ♂			黒	黒(番号)	黄	緑	黄	2011/07/16	2011/09/21巣立ち		
		J 0062 ♂			黒	赤	赤	赤		2013/04/09	2013/06/22巣立ち	行方不明	
		J 0063 ♀								2013/04/09	2013/07/01巣立ち	2013/12/24死亡	
		J 0064 ♀			黒	赤	赤	緑		2013/04/09	2013/06/16巣立ち		
		J 0095 ♀								2014/05/22	2014/08/03巣立ち	2014/08/29死亡	
福田	J 0384 ♀			青	黒(番号)	黒	黄	緑		2004/04/28	2006/09/23円山川放鳥		
	J 0391 ♂												
赤石	J 0384 ♀	J 0006 ♀		黒	黒(番号)	黒	黄	黄		2008/04/19	2008/06/22巣立ち		
	J 0389 ♂												
赤石	J 0426 ♂	J 0017 ♀		青	黒(番号)	赤	黒	黄		2004/05/10	2006/09/23円山川放鳥		
		J 0106 ♀	J 0107 ♀	黒	緑	黄	黄			2015/04/07	2015/06/10巣立ち		
福田	J 0004 ♀			黒	緑	黄	赤			2015/04/07	2015/06/10巣立ち		
	J 0011 ♂			黒	黒(番号)	赤	黄	緑					
福田	J 0004 ♀	J 0059 ♀		黒	黒(番号)	赤	黄	緑		2012/05/15	2012/07/16巣立ち		
	J 0020 ♂												
		J 0079 ♂								2013/05/09	2013/07/13巣立ち	2013/07/21死亡	
		J 0080 ♀								2013/05/09	2013/07/13巣立ち	2013/08/20死亡	
		J 0088 ♂			黒	青	赤	青		2014/04/02	2014/06/23巣立ち	行方不明	
福田	J 0010 ♀			黒	青	赤	緑		2014/04/02	2014/06/10巣立ち	2014/10/31死亡確認		
	J 0020 ♂												
河谷(電柱)	J 0016 ♀	J 0101 ♂		黒	緑	黒	黄			2015/03/29	2015/06/21巣立ち		
	J 0025 ♂	J 0102 ♀		黒	緑	黒	赤			2015/03/29	2015/06/16巣立ち		
戸島	J 0294 ♀	J 0007 ♂		赤	黒(番号)	黄	青	緑		2015/05/21	2015/07/25巣立ち	2015/08/05死亡確認	
	J 0391 ♂	J 0008 ♂		青	黒(番号)	黒	青	黄		2001/04/03	2005/09/24郷公園放鳥		
		J 0009 ♀								2004/05/12	2007/09/23山本放鳥		
		J 0013 ♂		黒	黒(番号)	黒	黄	緑		2008/04/27	2008/07/06巣立ち	2009/01/08死亡(事故)	
		J 0014 ♀		黒	黒(番号)	黒	赤	青		2008/04/27	2008/07/02巣立ち	2013/05/23死亡	
		J 0022 ♀		黒	黒(番号)	黒	赤	緑		2008/04/27	2008/07/02巣立ち		
		J 0023 ♀		黒	黒(番号)	黒	赤	青		2009/04/02	2009/06/11巣立ち		
		J 0028 ♀		黒	黒(番号)	黒	緑	赤		2009/04/02	2009/06/09巣立ち		
		J 0029 ♀		黒	黒(番号)	黒	緑	青		2010/03/30	2010/06/11巣立ち		
		J 0047 ♀		黒	黒(番号)	黄	黒	青		2010/03/28	2010/06/08巣立ち		
		未標識 ?		黒	黒(番号)	黄	青	赤		2011/04/05	2011/06/09巣立ち		
		J 0082 ♂		脚輪なし		黄	青	赤		2011/04/06	2011/06/11巣立ち	2015/04/26死亡	
		J 0096 ♂		脚輪なし		黄	青	赤		2012/04/02	2012/06/07巣立ち		
		J 0097 ♀		脚輪なし		黄	青	赤		2012/04/02	2012/06/10巣立ち	行方不明	
		J 0098 ♂		脚輪なし		黄	青	赤		2013/04/10	2013/06/25巣立ち	行方不明	
		J 0104 ♀		脚輪なし		黄	青	赤		2014/06/04	2014/08/11巣立ち	2015/10/05死亡確認	
		J 0105 ♀		脚輪なし		黄	青	赤		2014/06/04	2014/08/09巣立ち		
	野上(ケージ屋根(電柱)(巣塔))	J 0362 ♀	J 0010 ♀		黒	青	緑	赤			2014/06/04	2014/08/12巣立ち	
		J 0001 ♂	J 0015 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち	
			J 0016 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち	
		J 0017 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0030 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0048 ♂		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0049 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0050 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0060 ♂		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0061 ♂		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0087 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
		J 0103 ♀		黒	青	緑	赤			2015/04/01	2015/06/10巣立ち		
出石町伊豆		J 0296 ♀	J 0011 ♂		赤	黒(番号)	黄	青	黄		2015/05/21	2015/07/25巣立ち	2015/08/05死亡確認
		J 0381 ♂	未標識(I-A) ?		青	黒(番号)	黒	青	黄		2003/04/10	2005/09/24郷公園放鳥	
			未標識(I-B) ?		黒	黒(番号)	黒	赤	黒		2006/05/18	2006/07/29巣立ち	
		J 0018 ♂		黒	黒(番号)	黒	赤	黒		2008/05/01	2008/07/03巣立ち		
		J 0043 ♀		黒	黒(番号)	黒	青	黒		2009/04/24	2009/07/02巣立ち		
		J 0044 ♂		黒	黒(番号)	黒	青	黄		2009/04/22	2009/06/29巣立ち		
		J 0051 ♀		黒	黒(番号)	黒	青	赤		2009/04/22	2009/06/29巣立ち		
		J 0052 ♂		黒	黒(番号)	黒	青	赤		2009/04/22	2009/06/29巣立ち		
		J 0068 ♂		黒	黒(番号)	黒	青	赤		2011/04/28	2011/07/02巣立ち	2015/11/18死亡確認	
		J 0070 ♀		黒	黒(番号)	黒	青	赤		2012/05/22	2012/07/29巣立ち		
		J 0094 ♂		黒	黒(番号)	黒	青	赤		2012/05/22	2012/07/30巣立ち		
		J 0114 ♀		黒	黒(番号)	黒	青	赤		2012/05/22	2012/07/29巣立ち		
				黒	黒(番号)	黒	青	赤		2013/03/26	2013/06/14巣立ち	行方不明	
				黒	黒(番号)	黒	青	赤		2013/03/26	2013/06/06巣立ち	2013/10/01死亡	

営巣場所	個体番号・性別			個体識別				生年月日	放鳥・巣立ち情報	備考			
	放鳥世代	第2世代	第3世代	右脚輪		左脚輪					羽の染色		
				踵上	踵下	踵上	踵下						
郷公園	エヒメ ♀									2006/5 飛来			
	J 0405 ♂									2006/04/16	2007/09/22巣々浦放鳥	2014/09/19死亡	
		J 0019 ♂								2010/04/19	2010/06/25巣立ち	2011/04/17死亡	
		J 0021 ♂								2010/04/17	2010/06/23巣立ち		
		J 0041 ♀			黒	黒(番号)	黄	青	黄	2011/05/17	2011/07/20巣立ち		
		J 0042 ♀			黒	黒(番号)	黄	青	赤	2011/05/17	2011/07/20巣立ち	行方不明	
		J 0076 ♀			黒	黒(番号)	黒	青	赤	2013/04/23	2013/06/29巣立ち	行方不明	
		J 0077 ♀			黒	黒(番号)	黒	青	赤	2013/04/23	2013/06/28巣立ち	行方不明	
		J 0078 ♀			黒	黒(番号)	黒	青	赤	2013/04/23	2013/06/24巣立ち		
		J 0084 ♀			黒	黒(番号)	黒	青	赤	2014/03/26	2014/06/04巣立ち	2015/01/21死亡	
		J 0085 ♀			黒	黒(番号)	黒	青	赤	2014/03/26	2014/05/31巣立ち	行方不明	
		J 0086 ♂			黒	黒(番号)	黒	青	赤	2014/03/26	2014/06/04巣立ち		
	日撫	J 0002 ♀									2006/05/19	2006/07/29巣立ち	2011/09/03死亡
		J 0408 ♂	J 0024 ♀		黒	黒(番号)	黒	緑	緑		2006/05/24	2007/09/22巣々浦放鳥	2011/02/24死亡
	日高町山本	J 0399 ♀	J 0011 ♂		黒	黒(番号)	黒	緑	緑		2010/04/20	2010/06/30巣立ち	
		J 0053 ♀		黒	黒(番号)	赤	黒	青		2012/05/07	2012/07/13巣立ち		
		J 0054 ♂		黒	黒(番号)	赤	黒	青		2012/05/07	2012/07/09巣立ち		
		J 0055 ♀		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2012/05/07	2012/07/12巣立ち		
		J 0065 ♀		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2013/04/10	2013/06/21巣立ち	行方不明	
		J 0066 ♂		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2013/04/10	2013/06/22巣立ち		
		J 0067 ♂		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2013/04/10	2013/06/24巣立ち		
		J 0091 ♂		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2014/04/16	2014/06/28巣立ち		
		J 0092 ♀		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2014/04/16	2014/06/26巣立ち		
		J 0093 ♀		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2014/04/16	2014/06/20巣立ち	行方不明	
		J 0108 ♂		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2015/04/18	2015/06/23巣立ち	2015/06/24死亡	
		J 0109 ♀		黒	黒(番号)	赤	黒	黒		2015/04/18	2015/06/21巣立ち	2015/07/13死亡	
京丹後市永留		J 0010 ♀	J 0056 ♀		黒	黒(番号)	赤	黄	黄		2012/05/24	2012/08/03解放	行方不明
		J 0008 ♂	J 0057 ♂		黒	黒(番号)	赤	黄	赤		2012/05/24	2012/07/28巣立ち	
			J 0071 ♀		脚輪なし		赤	黄	赤		2012/05/24	2012/07/30巣立ち	行方不明
		J 0072 ♀		脚輪なし		赤	黄	赤		2013/04/19	2013/07		

◆江戸時代から現在まで、コウノトリをめぐる歴史を詳しく振り返ります。

コウノトリ年表

年	コウノトリ数		豊岡のコウノトリに関するできごと	豊岡を含む社会の動き
	野生	飼育		
江戸時代	—	—	●ほぼ全国各地でコウノトリが見られた ・豊岡市内では、中期から幕末までいくつかの記録が残されている。	・1685年「生類憐みの令」発布
明治時代	—	—	●乱獲 ・明治元年から24年まで、野生動物保護に対する国の手立ては無く、この間に多くの鳥獣が絶滅に追いやられた。	
1892年 (明治25)	—	—	●「狩猟規則」の制定 ・狩猟規則により一部の鳥獣が保護されたが、コウノトリやトキは効率的な農業の支障になる有害鳥との認識があり、保護対象にはならなかった。	
1894年 (明治27)	—	—	・コウノトリが再び姿を現し、鶴山(現豊岡市出石町桜尾)に1つがいがかが営巣する。	
1904年 (明治37)	—	—	●瑞鳥ブーム ・鶴山に営巣したコウノトリが4羽のヒナをかえす。日露戦争の勝利とあいまって、繁殖は吉兆であると「瑞鳥」ブームが巻き起こる。 ・地元の人々は、コウノトリ見物のために茶店を出し、観光客の誘致活動を展開した。(茶店は第2次世界大戦前まで続いた) ●保護行政 ・旧室植村は鶴山を保護し、兵庫県は鶴山の周囲18haを銃猟禁止地に指定する。	・日露戦争が始まる。
1907年 (明治40)	—	—	・この頃、旧奈佐村でもコウノトリ1つがいがかが営巣・繁殖	・台風により市内約5,000戸が浸水被害
1908年 (明治41)	—	—	●「狩猟法」の改正 ・鳥獣保護の根拠に、初めて「希少」性が加えられ、コウノトリ、トキ、ヘラサギが保護鳥として追加指定される。しかし、時はすでに遅く、全国からほとんど姿を消していた。	
1919年 (大正8)	—	—		・「史蹟名勝天然記念物保存法」制定
1920年 (大正9)	—	—		・円山川で大規模改修工事が始まる。(～1937年)
1921年 (大正10)	1つがい	—	●史蹟名勝天然記念物の指定 ・コウノトリの繁殖地として出石桜尾の「鶴山」が天然記念物に指定される。	
1923年 (大正12)	—	—		・関東大震災
1934年 (昭和9)	約60 (20つがい)	—	●但馬コウノトリの最盛期 ・この頃、コウノトリの生息地は、豊岡盆地を中心に朝来市和田山町から京都府京丹後市久美浜町の間(15km×30km)に拡大。	
1939年 (昭和14)	—	—	●戦争 ・戦地へ供給する木材として松が大量に伐採されたため、コウノトリは営巣の場を失い、個体数が激減する。大陸の渡りルートが戦地になったことも大きい。	・第2次世界大戦が始まる。
1945年 (昭和20)	—	—		・第2次世界大戦が終わる。
1950年 (昭和25)	2つがい + a	—	・豊岡市河谷、八鹿町(現養父市)浅間それぞれ1つがいがかが営巣。 ●「文化財保護法」の保護対象に ・コウノトリが文化財保護法の保護対象に指定される。	・豊岡町、新田村、中筋村、五荘村が合併し、豊岡市が発足 ●「文化財保護法」の制定 ●農地改革
1951年 (昭和26)	—	—	・コウノトリ生息地の移動に伴い、天然記念物指定を「鶴山」から「養父郡(現養父市)伊佐村」に変更する。	
1952年 (昭和27)	—	—	・「養父郡伊佐村」の指定が、天然記念物から特別天然記念物に変更される。	
1953年 (昭和28)	—	—	●「種」としての保護指定 ・コウノトリの移動に伴い、天然記念物指定を「生息地」から「種」に変更する。	
1955年 (昭和30)	—	—	●組織的な保護活動の始まり ・行政と民間が共同して「コウノトリ保護協賛会」を結成。官民一体となった保護活動が始まる。昭和33年に「但馬コウノトリ保存会」(以下、「保存会」という。)と改称。	

年	コウノトリ数		豊岡のコウノトリに関するできごと	豊岡を含む社会の動き
	野生	飼育		
1956年 (昭和31)	23	—	・「コウノトリ」の指定が、天然記念物から特別天然記念物に変更される。	
1959年 (昭和34)	20	—	・この頃から保存会は、「コウノトリをそととする運動」や、人工巣塔の設置(豊岡市百合地地区)、人工餌場をつくり小魚を放流するなど、様々な活動を展開。	・伊勢湾台風により市内16,800戸に浸水被害
1960年 (昭和35)	—	—		●経済成長重視社会へ ・池田内閣が「所得倍増計画」を発表。驚異的な経済成長を上げた50～70年代の「高度経済成長期」の中、生活様式が大きく変化。農村から都市への人口移動、農村構造の変化、都市の大気や水の汚染が社会問題となる。
1961年 (昭和36)	—	—		・第2室戸台風により市内1,933戸に浸水被害 ●近代的・効率的な農業へ ・農業の近代化と生産性の向上を目的に、「農業基本法」を制定。化学肥料や農薬、大型機械を使った農法が急速に広がる。
1962年 (昭和37)	14	—	・保存会が、「ドジョウ1匹運動」を展開。 ・兵庫県が、「特別天然記念物コウノトリ」の管理団体に指定される。	・レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を出版。化学物質による土壌汚染に警鐘を鳴らす。
1963年 (昭和38)	14	—	・保存会が、保護活動費を募る「愛のきよ金運動」を開始。 ・兵庫県がコウノトリの人工飼育に踏み切ることを決定。	
1965年 (昭和40)	8	2	●コウノトリ人工飼育の始まり ・豊岡市野上にコウノトリ飼育場(現コウノトリの郷公園付属施設保護増殖センター(以下、「飼育場」という。))が完成。野生コウノトリ1つがい(2羽)を捕獲し、人工飼育を開始する。 ・コウノトリが兵庫県の県鳥に指定される。 ・文部省のコウノトリ飼育対策協議会で、野外に生息しているコウノトリすべてを人工飼育によって保護することを確認。	・食料自給率(カロリーベース)が73%になる。 ・台風23号により市内の1,933戸に浸水被害 ・市内で農業構造改造事業を始める。(赤石地区・土湖地区の土地基盤整備)
1966年 (昭和41)	8	—	・東京教育大学の武藤教授が、豊岡盆地で死んだコウノトリの死因は、水銀剤農薬によると発表。	・円山川が1級河川に昇格する。 ・1956年から始まった円山川改修工事の計画高水量が改定され、円山川の工事実施基本計画が定められる。
1967年 (昭和42)	3	4	・市内で野生コウノトリ2つがいを捕獲。 ・第1回コウノトリ保護増殖対策会議開催。	・「公害対策基本法」制定
1968年 (昭和43)	0	4		・市内中筋北部の圃場整備、コンバイン購入事業
1969年 (昭和44)	1	3	・市内で野生コウノトリ1つがいを捕獲。	
1971年 (昭和46)	0	4	●日本の野外でコウノトリ絶滅 ・市内で傷ついて衰弱した最後の野生コウノトリが保護されたが死亡。これにより、コウノトリは日本の野外から姿を消した。 ・福井県武生市で保護されたコウノトリ1羽が飼育場に移送される。 ・鹿児島県奄美郡徳之島町でコウノトリ1羽が保護される。(翌年飼育場に移送される。)	・ラムサール条約(正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」)採択。 ・環境庁が設置される。 ●農政の大きな変化・減反政策 ・米の過剰供給解決のため、減反政策が始まる。
1972年 (昭和47)	—	5		・ローマクラブ「成長の限界」発表 ・国連人間環境会議(ストックホルム)で「人間環境宣言」 ・国連環境計画(UNEP)設置 ・第17回ユネスコ総会で、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」採択 ・市内で法花寺万歳保存会発足
1973年 (昭和48)	—	—		・ワシントン条約(正式名称「絶滅のおそれのある野生動物種の国際取引に関する条約」)採択
1976年 (昭和51)	—	5		・台風17号により市内3,022戸に浸水被害
1979年 (昭和54)	—	5		・台風20号により市内1,016戸に浸水被害
1983年 (昭和58)	—	7		・(南朝日農事組合発足
1985年 (昭和60)	—	10	●ロシアからコウノトリを導入 ・旧ソ連・ハバロフスク地方からコウノトリの幼鳥6羽を受贈し、飼育場で飼育を始める。(以降、H11,15,16にもハバロフスクから寄贈あり)	・食料自給率(カロリーベース)が53%になる。 ・市内で初めて1集落1営農形態の中谷農事組合が発足
1986年 (昭和61)	—	9	・飼育場で、豊岡盆地に生息していたコウノトリの最後の1羽が死亡。日本のコウノトリ絶滅。	

年	コウノトリ数		豊岡のコウノトリに関するできごと	豊岡を含む社会の動き
	野生	飼育		
1987年 (昭和62)				・環境と開発に関する世界委員会から「持続可能な開発」の概念発表。
1989年 (平成元)		11	●人工繁殖に成功 ・コウノトリの人工繁殖に初めて成功(2羽生育)。以後、毎年ヒナが誕生する。	・日本版レッド・データブック(第1版)公表
1990年 (平成2)		15		・河川水辺の国勢調査開始。 ・台風19号により市内2,508戸に浸水被害 ・北近畿タンゴ鉄道宮津線の開業
1991年 (平成3)		20	・東京都多摩動物公園から、2羽繁殖貸与を受ける。(以降、頻繁に国内動物園との個体の行き来あり。記述は省略)	・バブル経済が崩壊。
1992年 (平成4)		26	●コウノトリ野生復帰計画が始まる ・飼育下にあるコウノトリの将来方向を決めるため、コウノトリ将来構想調査委員会(以下、「委員会」という。)が発足。	・国連環境開発会議(リオデジャネイロ)で「環境と開発に関するリオ宣言」、「生物多様性条約」採択 ・「種の保存法」制定 ・柳行李が伝統的工芸品の指定を受ける。 ・但馬空港(現コウノトリ但馬空港)の開港
1993年 (平成5)		30	・委員会は、飼育下コウノトリを野生復帰させる方向を確認。その中間報告で、野生化拠点場所を、豊岡市祥雲寺・河谷・百合地地区に建設することを決定。	・EU発足 ・国連持続可能な開発検討委員会設置 ・「環境基本法」制定
1994年 (平成6)		40	・委員会がコウノトリの基本構想を策定する。 ・飼育下第3世代(F2)が誕生し、安定した繁殖に目処がたつ。 ・第1回コウノトリ未来・国際かいぎの開催。テーマ「コウノトリの野生復帰」	・「気候変動枠組条約」発効 ・但馬ミュージカル研究会発足
1995年 (平成7)		43	・県が、コウノトリの郷公園(仮称)基本計画を策定。	・「生物多様性国家戦略」策定 ・阪神・淡路大震災 ・食料自給率(カロリーベース)が43%になる。
1996年 (平成8)		44		・ISO14001発効
1997年 (平成9)		47	・コウノトリの郷公園建設工事着工。 ・コウノトリの郷公園で分散飼育開始。 ・豊岡あいがも稲作研究会発足。郷公園周辺で、無農薬による米づくりが組織的に始まる。	・地球温暖化防止京都会議(COP3)開催。「京都議定書」採択。国ごとの二酸化炭素排出量削減数値目標を定める。 ・河川法の改正(目的に環境保全を追加) ・駅前再開発ビル「アイティ」完成
1998年 (平成10)		54	・コウノトリ市民研究所発足(2004年にNPO法人化)。以降、豊岡盆地の生きもの調査をはじめ、「田んぼの学校」の開催等様々な活動を行っている。	・「家電リサイクル法」制定 ・豊岡で最初の朝市「加陽の朝市」ができる。
1999年 (平成11)		66	●種の保存、野生化に向けた拠点ができる ・兵庫県立コウノトリの郷公園が開園。 ・コウノトリの郷公園進入路の電柱を地中化。	・「食料・農業・農村基本法」制定 ・コウノトリの郷公園前で、「コウノトリの郷朝市(現コウノトリの郷直売所)」が始まる。
2000年 (平成12)		73	●市民の学習の場を提供する普及啓発施設ができる ・郷公園内に、豊岡市立コウノトリ文化館が開館。 ・豊岡市コウノトリ基金を設置。 ・第2回コウノトリ未来・国際かいぎを開催。テーマ「人と自然の共生」	・「循環型社会形成推進基本法」制定 ・「建設リサイクル法」制定 ・「食品リサイクル法」制定 ・円山川河川敷一部を湿地再生(ピオトープ化) ・「コウノトリの郷朝市友の会(現合同会社コウノトリの郷直売所)」発足
2001年 (平成13)		82	・転作田を活用したピオトープ水田を始める。 ・コウノトリ・パークボランティア発足。	・環境省発足
2002年 (平成14)	野1	101	●行政担当部署の整備、体系的な政策の企画・調整 ・市企画部に「コウノトリ共生推進課(現コウノトリ共生課)」を設置。 ・兵庫県但馬県民局企画調整部に「コウノトリ翔る地域づくり担当参事」が設置される。 ・飼育コウノトリが100羽を超える。 ・水田と水路をつなぐ魚道の設置が始まる。 ・「コウノトリ野生復帰推進計画」策定。 ・「コウノトリ翔る地域まごど博物館構想・計画」策定。 ●野生コウノトリの飛来 ・8月に野生コウノトリ1羽(ハチゴロウ)が飛来。	・「自然再生推進法」成立 ・「新・生物多様性国家戦略」決定 ・「自動車リサイクル法」制定 ・食料自給率(カロリーベース)が40%になる。 ●市の方針の明確化 ・「豊岡市総合計画」策定。目指す都市像を「コウノトリ悠然と舞い、笑顔あふれる ふるさと・豊岡」と定める。これに基づき、「コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」、「豊岡市環境基本計画」策定 ・円山川水系自然再生計画(国・県)策定委員会の発足 ・「コウノトリの郷営農組合」発足 ・「河谷地区営農組合」発足 ・エコファーマー認定制度の開始

年	コウノトリ数		豊岡のコウノトリに関するできごと	豊岡を含む社会の動き
	野生	飼育		
2003年 (平成15)	野1	105	●横の連携が広がり始める ・コウノトリ野生復帰推進連絡協議会の設置。 ・コウノトリ野生復帰技術方策検討委員会の設置。 ・10月、コウノトリ文化館来館者が50万人に達する。 ・転作田を活用したピオトープづくりが市内複数の農会・農事組合に広がる。 ・安全・安心農産物ブランド「コウノトリの舞」の商標登録。 ・コウノトリと共生する水田づくり(田圃自然環境再生、転作田ピオトープ、中干し延期・冬期湛水稲作)が始まる。 ・コウノトリの試験放鳥に向けた野生馴化訓練が始まる。 ・愛知県でコウノトリ1羽が捕獲され、郷公園へ移送される。 ・文化庁より、豊岡盆地が「文化的景観」に選定される。	・「環境保全活動・環境教育推進法」制定 ・「遺伝子組換え生物規制法」制定 ・「循環型社会形成推進基本計画」策定 ・食糧法を改正し、「食料・農業・農村基本法」制定 ・豊岡盆地が文化的景観に選定 ・但馬地域がグリーン・ツーリズム特区に認定され、市民農園や農家民宿がオープンする。 ・第1回コウノトリ感謝祭開催(以降、第3回まで毎年開催) ・市内小学校を環境教育モデル校に指定 ・収集ごみの有料化を開始 ・「豊岡市環境行動計画」策定
2004年 (平成16)	野1	113	・愛知万博でコウノトリ野生復帰をPR。 ・コウノトリ野生復帰を全国規模で応援する「コウノトリファンクラブ」が発足。 ・コウノトリの郷公園周辺県道の電柱地中化・美化化を行う。 ・韓国教員大学韓国コウノトリ研究所へコウノトリ2羽譲渡。(以降、H19にも譲渡あり) ・野生復帰に向けた順化訓練(飛行・採餌など)の実施。 ・新潟県でコウノトリ1羽が保護され、郷公園へ移送される。	・「景観法」施行 ・国産最後のトキ「キン」が死亡 ・鳥インフルエンザが問題となる。 ・円山川下流域が全面銃撃禁止区域となる。 ・ひのそ鳥の掘削工事が始まる。 ・台風23号により、市内7,944戸に浸水被害 ・豊岡かばんが「JAPAN」ブランド育成支援事業」に選定される。 ●環境と経済の共鳴に向けて ・「豊岡市環境経済戦略」策定 ・市内で研究活動を行う学生を支援する「コウノトリ野生復帰学術研究奨励補助制度」が始まる。
2005年 (平成17)	野1 放7	111	●コウノトリ試験放鳥始まる ・9月、飼育下コウノトリの試験放鳥が始まる。 ・第3回コウノトリ未来・国際かいぎ開催。テーマ「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」 ・「コウノトリ育む農法」が各地域に広がる。	・4月、1市5町の合併により新豊岡市となる。 ・市街地に「カバンストリート」がオープン

(以上、第3回コウノトリ未来・国際かいぎ(2005.9)資料「豊岡の挑戦」から)【一部加筆】

年	コウノトリ数		コウノトリに関するできごと	関係するできごと
	野生	飼育		
2005年度 (平成17)	野1 放7	111		3月 ・愛知万博で「コウノトリ野生復帰」プロジェクト紹介(愛知県名古屋市)
			6月 ・クチバシの折れたコウノトリ「武生」が死亡	4月 ●新「豊岡市」発足
2006年度 (平成18)	野1 放13	107	9月 ・飼育下コウノトリの試験放鳥開始 自然放鳥5羽・祥雲寺 段階的放鳥2羽・野上	9月 ・第3回コウノトリ未来・国際かいぎ開催。 テーマ「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」
			4月 ●野外での産卵(孵化せず) ・自然放鳥の中から、2羽がペアとなり産卵。(孵化には至らず・百合地果塔)	4月 ・市の農林水産部を「コウノトリ共生部」に改称。同部内にコウノトリ共生課設置 ・コウノトリ環境経済コンソーシアム設立
			5月 ・祥雲寺の段階的放鳥拠点のペアへ託卵、ヒナ2羽が飛び立ち ・野上拠点での段階的放鳥を中止 ・愛媛県から野生コウノトリ1羽(エヒメ)が飛来	5月 ●子ども野生復帰! ・子どもの野生復帰大作戦「自然体験学校」開講
				6月 ・コウノトリ文化館入館者100万人到達
			7月 ・試験放鳥 段階的放鳥2羽・祥雲寺	
			9月 ・試験放鳥 自然放鳥3羽・円山川河川敷 段階的放鳥4羽・河谷	
				10月 ・「多自然型川づくり基本指針」の策定
				11月 ・豊岡市環境審議会「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例案」答申
				12月 ・「有機農業推進法」制定
			2月 ・17年度自然放鳥個体1羽死亡 ・野生コウノトリ「ハチゴロウ」死亡	2月 ・「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に市内5地区認定

年	コウノトリ数		コウノトリに関するできごと	関係するできごと
	野生	飼育		
2006年度 (平成18)				3月 ・市立地域交流センター「コウノトリ本舗」オープン ・バイオマスタウン構想書公表 ・豊岡市総合計画策定 ・「(仮称)ハチゴロウの戸島湿地」整備基本構想・計画策定
2007年度 (平成19)	野1 放18	99	4月 ・18年度自然放鳥の中から2羽がペアとなり産卵(孵化には至らず・赤石巣塔)	5月 ・「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に市内9地区認定
			6月 ・日欧共同ワークショップ・シンポジウム(ドイツ)で市長が講演	7月 ・環境経済型セミナー(市民環境大学) ・ひのそ鳥(円山川中州)掘削完成
			7月 ●野外でのヒナ誕生・巣立ち(国内で46年ぶり) ・18年度段階的放鳥のペアからヒナ1羽が巣立ち(百合地巣塔 5/20誕生、7/31巣立ち)	9月 ・コウノトリ湿地ネット発足
			9月 ・試験放鳥 自然放鳥3羽・楽々浦 段階的放鳥2羽・山本	10月 ・日欧共同ワークショップ・シンポジウムを豊岡で開催 ●学校給食の変化 ・市内小中学校の学校給食で、コウノトリ育むお米を2ヶ月に3回の割合で使用
			10月 ・韓国教員大学校韓国コウノトリ研究所へ4羽譲渡	11月 ・「第三次生物多様性国家戦略」決定 ・バイオディーゼル燃料(BDF)を学校給食配送車に使用
			2月 ・自然放鳥個体1羽収容	3月 ●野生復帰後初めてのヒナの誕生日を市の記念日に ・豊岡市「生きもの共生の日」(5/20)を制定
			5月 ・三木の段階的放鳥拠点のペアへ託卵。その後、ヒナ2羽が飛び立ち	5月 ・市立コウノトリ文化館で「環境協力金」呼びかけ開始 ・ふるさと納税「コウノトリ豊岡寄付金」制度導入 ・コウノトリツーリズムガイドを開設 ・田結の休耕田で湿地創出の動き ・「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に市内1地区認定
2008年度 (平成20)	野1 放27	100	6月 ●野外での順調な繁殖 ・自然、段階的放鳥の中から5ペアのヒナ8羽が巣立ち(〜7月)	6月 ・「生物多様性基本法」制定 ・コウノトリ生息地保全協議会を設立(環境省補助事業採択)
			7月 ・試験放鳥 段階的放鳥2羽・三木	7月 ・豊岡市マスコット・コウノトリの「コーちゃん」、オオサンショウウオの「オーちゃん」誕生 ・コウノトリ文化館入館者200万人到達
			9月 ・リーマンショック ●トキの野生復帰始まる ・トキ放鳥記念式典に市長、市内小学生参加(新潟県佐渡市)	9月 ・ラムサール条約第10回締約国会議に参加(韓国) ・水田決議(正式名称「湿地システムとしての水田における生物多様性の向上」)採択
			10月 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡	10月 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡
			1月 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡	1月 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡
			2月 ・豊岡KODOMOラムサール交流会を開催	2月 ・豊岡KODOMOラムサール交流会を開催
2009年度 (平成21)	野1 放35	98	4月 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡	4月 ・コウノトリの郷公園開設10周年 ・学校給食を毎日米飯にするとともに、週1回の割合でコウノトリ育むお米を使用 ●野外コウノトリのための拠点施設ができる ・ハチゴロウの戸島湿地開設(指定管理者:コウノトリ湿地ネット)

年	コウノトリ数		コウノトリに関するできごと	関係するできごと
	野生	飼育		
2009年度 (平成21)			5月 ・自然、段階的放鳥、野生個体の中から4ペアのヒナ9羽が巣立ち(〜8月)	5月 ●寄付金「コウノトリ基金」の本格的活用が始まる ・市内小学校区ごとにコウノトリ基金活用ビデオテープの設置を開始。小学校授業と連携
			6月 ・「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に4地区認定(うち市内1地区)	6月 ・「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に4地区認定(うち市内1地区)
			9月 ・日本・アジア SATOYAMA 教育イニシアティブ実習(東京大学、国連大学高等研究所、豊岡市連携事業)	9月 ・日本・アジア SATOYAMA 教育イニシアティブ実習(東京大学、国連大学高等研究所、豊岡市連携事業)
			10月 ・試験放鳥 段階的放鳥2羽・唐川	10月 ・試験放鳥 段階的放鳥2羽・唐川
			11月 ・豊岡市経済成長戦略策定	11月 ・豊岡市経済成長戦略策定
			12月 ・21年度段階的放鳥個体1羽死亡 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡	12月 ・21年度段階的放鳥個体1羽死亡 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡
2010年度 (平成22)	野1 放41	98	2月 ・自然放鳥個体1羽収容	2月 ・自然放鳥個体1羽収容
			3月 ・「生物多様性国家戦略2010」決定 ・国土交通省が、出石川加陽大規模湿地整備工事に着手	3月 ・「生物多様性国家戦略2010」決定 ・国土交通省が、出石川加陽大規模湿地整備工事に着手
			4月 ・福井県越前市に野生個体1羽が飛来(4/1〜連続107日間滞在) ・山本の段階的放鳥拠点のペアへ託卵。その後、ヒナ2羽が飛び立ち	4月 ●コウノトリ野生復帰の次世代育成に向けて ・コウノトリKIDSクラブ設立 ・コウノトリ文化館開設10周年 ・豊岡市エコハウス完成 ●豊岡市に「環境のまちづくり専門員(生物多様性保全担当)」を配置
			5月 ・「国際生物多様性年関連事業」を実施(〜10月)	5月 ・「国際生物多様性年関連事業」を実施(〜10月)
			6月 ・自然、段階的放鳥、野生個体の中から5ペアのヒナ9羽が巣立ち(〜8月・自然放鳥個体と野生個体の間に初めてのヒナ誕生。遺伝的多様性に光明)	6月 ・自然、段階的放鳥、野生個体の中から5ペアのヒナ9羽が巣立ち(〜8月・自然放鳥個体と野生個体の間に初めてのヒナ誕生。遺伝的多様性に光明)
			7月 ・試験放鳥 段階的放鳥2羽・山本	7月 ・「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に3地区認定(うち市内1地区)
			8月 ・JICA草の根技術協力事業による中国への支援(環境教育・環境創造型農業)のため訪中	8月 ・JICA草の根技術協力事業による中国への支援(環境教育・環境創造型農業)のため訪中
			9月 ・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体2羽死亡 ・22年度段階的放鳥個体1羽死亡	9月 ●ラムサール条約湿地登録に向けた動きが本格化 ・「円山川下流域及び周辺水田」がラムサール条約の国内潜在候補地に選定(9/30)
			10月 ・山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定 ・生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)に参加(愛知県名古屋市) ・COP10で「愛知目標(ポスト2010年目標(2011〜2020年))」を採択 ・第4回コウノトリ未来・国際かいぎ開催。テーマ「野生復帰がもたらすもの〜コウノトリが紡ぐ いのち・地域・経済・文化〜」 ・「コウノトリの生息地を全国に広げる市民かいぎ」、「関係自治体会議」を開催	10月 ・山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定 ・生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)に参加(愛知県名古屋市) ・COP10で「愛知目標(ポスト2010年目標(2011〜2020年))」を採択 ・第4回コウノトリ未来・国際かいぎ開催。テーマ「野生復帰がもたらすもの〜コウノトリが紡ぐ いのち・地域・経済・文化〜」 ・「コウノトリの生息地を全国に広げる市民かいぎ」、「関係自治体会議」を開催
			12月 ●高病原性鳥インフルエンザ対策が本格化 ・鳥取県米子市と富山県高岡市で死んだ野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたことを受け、郷公園でのコウノトリ12羽の公開を一時中止(12/25〜1/22収容)	12月 ・豊岡市高病原性鳥インフルエンザ警戒本部を初めて設置
1月 ・兵庫県伊丹市瑞ヶ池で死亡していた野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたこと等を受け、郷公園でのコウノトリ12羽の公開を再び一時中止(1/27〜3/22収容)	1月 ・兵庫県伊丹市瑞ヶ池で死亡していた野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたこと等を受け、郷公園でのコウノトリ12羽の公開を再び一時中止(1/27〜3/22収容)			
2月 ・19年度自然放鳥個体1羽死亡	2月 ・兵庫県が「コウノトリ野生化対策会議」を立ち上げ			
3月 ・18年度自然放鳥個体1羽死亡	3月 ●東日本大震災発生(3/11)			

(以上、第4回コウノトリ未来・国際かいぎ(2010.10)資料編から)【一部加筆】

年	コウノトリ数		コウノトリに関するできごと	関係するできごと
	野生	飼育		
2011年度 (平成23)	野1 放47	95	4月	・放鳥コウノトリの野外繁殖により巣立った個体1羽死亡 4月 ・学校給食でのコウノトリ育むお米の使用を週2回に ・市政調整部内に「エコバレー推進室」を設置 5月 ・コウノトリ文化館入館者300万人到達
			6月	・自然、段階的放鳥、野生個体の中から5ペアのヒナ9羽が巣立ち(～9月・百合地巣塔9/24のヒナ巣立ちは最も遅い記録)
			8月	●コウノトリ野生復帰の中長期計画策定 ・兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」を発表 ・兵庫県が「コウノトリ野生復帰推進計画(第2期)策定委員会」を立ち上げ
			9月	・18年度段階的放鳥個体1羽死亡
			11月	・豊岡市が「生物多様性地域戦略検討委員会」を立ち上げ
			12月	●兵庫県以外での繁殖個体群創設に向けた動きがスタート ・福井県越前市に1ペア(2羽)を移送(12/10)
			2月	・人工巣塔を移設し、営巣場所を誘導(祥雲寺)
			3月	・「コウノトリ野生復帰推進計画(第2期)」策定(兵庫県) ・「豊岡市農業振興戦略」策定
2012年度 (平成24)	野1 放58	97	※以降、野外コウノトリのケガによる取容・死亡等の情報は、件数が多いため敢えて記載せず。特記事項のみ抽出し記載する。	
			4月	・市立三江小学校内の人工巣塔で初めて産卵するも、突風によって巣が飛ばされ、落下した4卵のうち2卵が破卵。高所作業車を使って巣を繕い2卵を戻すが、その後抱卵せず。ふ化には至らなかった ●初めて市外で繁殖 ・豊岡市以外・県外(京都府京丹後市久美浜町永留)でコウノトリが営巣・産卵(→5月ふ化、7月巣立ち)
			5月	●放鳥3世の誕生 ・野外で巣立ったコウノトリ同士のペアによる国内初のヒナがふ化。(福田巣塔) ●遺伝的多様性の向上、性比バランスの向上を強化 ・東京都多摩動物公園とのコウノトリの交換(2羽) ※過去、同公園とはH10年度に交換、H12年度譲渡、H14年度譲渡、H15年度交換あり
			6月	・6/26を農家の「一斉生きもの調査日」に
			7月	●ラムサール条約湿地登録 ・「円山川下流域・周辺水田」560haがラムサール条約湿地に登録(7/3) ・ラムサール条約第11回締約国会議に参加(ルーマニア) ・「円山川下流域」の湿地保全の取組みが、国際湿地ネットワーク(WWN)が行うウェットランド・グローブ賞のブルーグローブ賞(最良の実践例)を受賞 ・豊岡エコポイント制度開始
			9月	・野外個体の性比バランス改善に向けたオス個体の放鳥(出石町袴狭)
			10月	・ロシア・ハバロフスク地方のプリアムールスキー動物園に4羽(2ペア)を寄贈
			3月	・近親婚回避対策のための営巣阻止の実施(巣台の周囲に障害物を設置) 3月 ・コウノトリ湿地ネットの、田結をフィールドとした活動が「ラムサール・ダノン・エビアンプログラム」に採択(2カ年事業)される ・「円山川水系河川整備計画(国管理区間)」策定(国土交通省豊岡河川国道事務所)
			4月	・生息地ネットワーク保全管理作業員を配置 ・コウノトリ野生復帰に関する行政6機関(文化庁、国土交通省、農林水産省、環境省、兵庫県、豊岡市)が共同主体となり、「コウノトリ野生復帰検証事業」に着手
			2013年度 (平成25)	野1 放71

年	コウノトリ数		コウノトリに関するできごと	関係するできごと
	野生	飼育		
2013年度 (平成25)	野1 放77 (H2&1現在)	96	5月	・越前市の飼育ペアが初の産卵 ・野田市の飼育ペアが初の産卵
			6月	・養父市八鹿町伊佐地区拠点から放鳥(託卵ふ化個体) ・京丹後市永留地区で営巣中のオス親が死亡したため、人工巣塔内のヒナ5羽を捕獲し、収容 ・東京都多摩動物公園とのコウノトリの交換(3羽) ・野田市、飼育下で初のふ化(6/9)(越前市は無性卵のためふ化せず)
			7月	・朝来市山東町三保地区拠点から放鳥(託卵ふ化個体)
			8月	・野田市、飼育下で初の巣立ち(2羽。8/2、8/10)
			9月	・「豊岡市生物多様性地域戦略」策定
			11月	・広島県安佐動物公園にコウノトリを譲渡(オス1羽、メス1羽)
			12月	●国内個体群管理に関する連携組織立ち上げ ・「ニホンコウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル(専門会議)」(略称 I P P M-OWS)の設立
			2月	・野外コウノトリが、人工巣塔以外で初の産卵行動(野上保護増殖センター敷地内の松林にて。産卵には至らず)
			3月	●野外コウノトリが初めて国境を越える ・3/18 韓国慶尚南道金海(キメ)市でJ0051が目撃される ・東京都多摩動物公園に有精卵(4ケ)を移送
			3月	・「加陽湿地拠点整備・管理運営計画」策定(豊岡市)
2014年度 (平成26)	野1 放70	95	6月	●福井県越前市の飼育ペアが産卵、初のふ化(無精卵であったため、託卵しふ化に成功)
			7月	・コウノトリ野生復帰検証事業の結果報告 ・第5回コウノトリ未来・国際かいぎ開催。テーマ「未来へ! ～野生復帰のすすめ～」
			9月	・コウノトリ文化館入館者400万人到達
			10月	・生物多様性条約第12回締約国会議(CBD/COP12)に参加(韓国・江原道(カンウォンド)・平昌(ピョンチャン))
2月	・豊岡市日高町山本の人工巣塔から巣立ったコウノトリ(J0092)が韓国で確認。昨年3月の移動に続き2例目となる。			
2015年度 (平成27)	野1 放77 (H2&1現在)	96	4月	・学校給食でのコウノトリ育むお米の使用を週3回に。
			5月	・イタリア・ミラノでミラノ国際博覧会が開催され(5月1日～10月31日)、日本館のフードコートで使用されたお米は全て「コウノトリ育むお米」(約24.5t)。
			6月	・朝来市山東町三保地区拠点から放鳥 ・養父市八鹿町伊佐地区拠点から放鳥
			7月	●千葉県野田市でコウノトリ放鳥(3羽) ●平成19年に初めて野外で巣立ちを確認して以来、100羽目となる巣立ちを確認
			9月	●韓国・礼山郡でコウノトリ放鳥(8羽) ・豊岡市出石町伊豆の人工巣塔から巣立ったコウノトリ(J0094)が韓国で確認。今年2月の移動に続き、3例目となる。
			10月	●福井県越前市でコウノトリ放鳥(2羽)
11月	・IPPM-OWSフォーラムの開催			

「ほろびゆくものはみなうつくしい
しかし ほろびさせまいとするねがいは
もっとうつくしい」

日本のコウノトリは英名でJapanese storkという通り、日本のコウノトリと呼ぶにふさわしいもので、それが日本から姿を消すようなことがあったら、何としても残念なことである。このコウノトリを絶滅から守ることは、アジアの先進国を以て自身も信じ、他からもそう見られている日本人の文化的な責務であるといつてよい。

もともとコウノトリは決して現代に繁栄する力づよい種類ではない。しかしながら決して自然に絶滅するほど弱体な種でもなかったのである。これを現在の危険な状態に追い込んだのは全く人間、それも日本人であることは疑いないのである。

すなわちまず明治時代に狩猟によって絶滅近くまで追い込み、僅かに残って兵庫県但馬の鶴山で回復に向かおうとしたところを森林の濫伐によって繁殖地を奪い、豊岡付近に逃れてそこに辛くも生命をつなごうとしたところを、今度は強烈な農薬の散布によって繁殖能力を弱めて最後のとどめをさそうとしているのである。この間に不幸なコウノトリを救おうと、なみなならぬ努力をつくされた少数の方々がいることは記憶しなければならない。しかし今は少数の方々の苦心にまかしておいてよいという段階をこえたところにきている。日本人の全部の知恵と努力とを集めて何とかこれを救わなければならないのである。

人間と動物が愛情によって固く結ばれる文明こそが、人類文明の名に値するものだ。あらゆる努力を傾倒して、この哀鳥の滅亡を救うことに成功したとき、日本人ははじめて文明国民として世界中から認められるだろう。「ほろびゆくものはみなうつくしい」とは詩人の詠嘆だ。だが、滅びゆくものを救うことこそ、もっと美しい人間の任務である。

阪本 勝(元兵庫県知事)著「コウノトリ」(1966年神戸新聞出版部)から

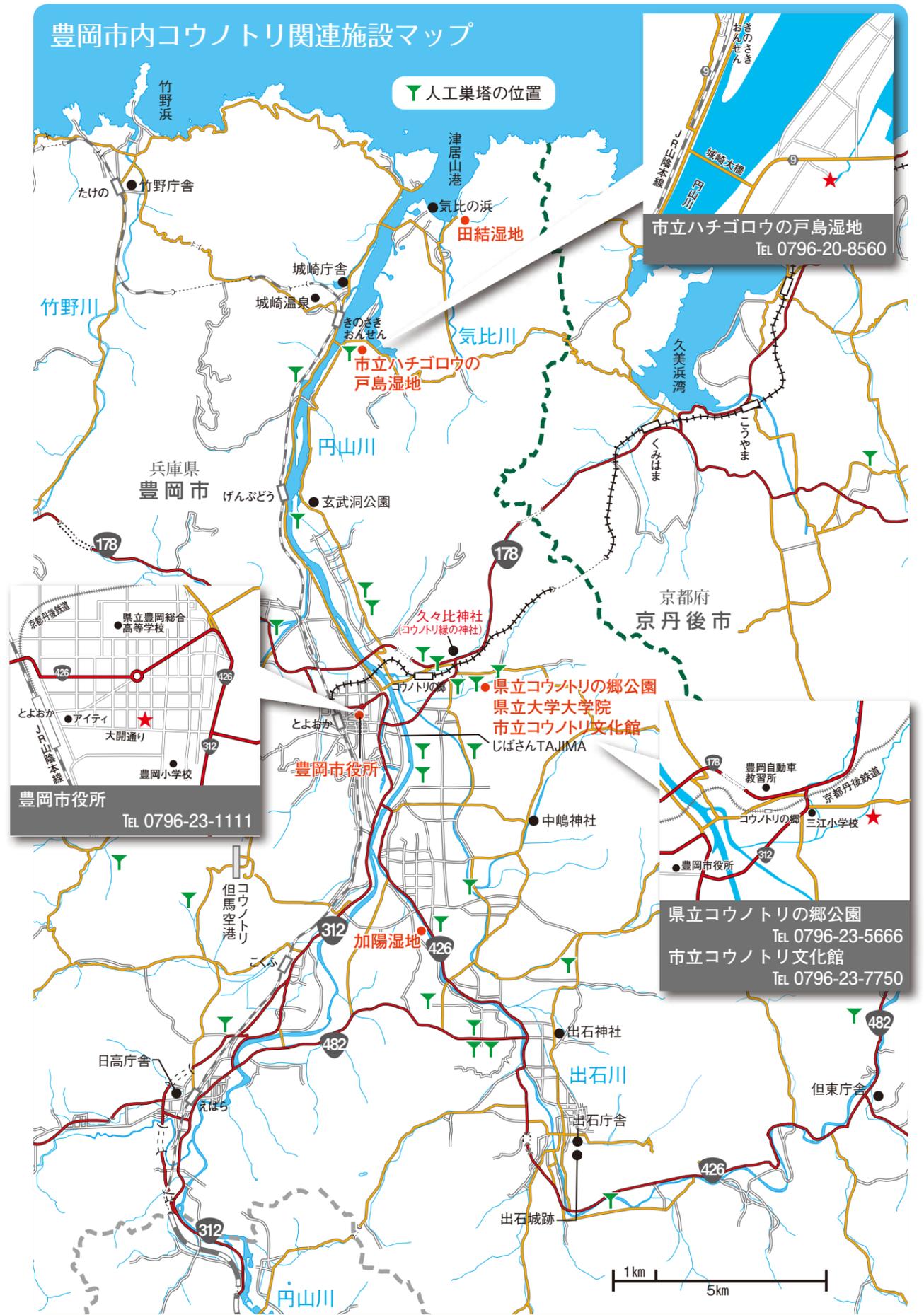
「人間のエゴだけで突き進む文明は、たとえそれが豊かそうに見えても、文明の名に値するものではない。」そう言われているように思います。氏は、危うげな近代文明の行方を暗示されていたのかも知れません。

コウノトリ野生復帰のバトンを受けた私たちは、氏が指し示した方向に歩みを進められているでしょうか。

コウノトリの保護をベースに、さまざまな分野に広がってきた取組み——。「共に生きようとする営みは、さらに美しい。」そう評してもらえるような文化をこの地に根づかせ、「文明」と呼ばれるところまで高めていきたいものです。



豊岡市内コウノトリ関連施設マップ



市立ハチゴロウの戸島湿地
Tel 0796-20-8560

豊岡市役所
Tel 0796-23-1111

県立コウノトリの郷公園
Tel 0796-23-5666
市立コウノトリ文化館
Tel 0796-23-7750

大きい、小さい、強い、弱い、
いろんな思いのいろんな足あと。
みんながいっぱいつけてった。



足あとを見つけて、いろんな人もやってきた。
大きい、小さい、強い、弱い、
ここからもみんなが。

監修・発行：豊岡市（2016.2）

この冊子はコウノトリ野生復帰にまつわる足跡をできるだけわかりやすく総合的にまとめたものであり、関係各主体の取組みを引用させていただいています。



この印刷物(冊子)は、自然環境に配慮して、FSC®認証材を一部使用した紙にベジタブルインキを使い、印刷時に廃液の出ない水なし印刷機で印刷しています。